

科学技術の集積地: ガーデン・シティ つくば

わが街つくばは、1985年(昭和62年)に国際科学技術博覧会「つくば万博」が開催されてから20余年を数えようとしています。今では日本を代表する科学技術の拠点として、世界中から高い評価を受けるまでに発展してまいりました。

つくば万博開催の前年、1984年(昭和61年)のことです。広大な関東平野に田畑と雑木林がどこまでも続く現地は、まさに突貫工事の真最中でした。「本当にここで国際博覧会が開かれるの?」、「来場者の宿泊先や食事場所の確保はどうするの?」と言った声が住民の間から聞こえていました。

しかしそんな不安の声はどこへやら、「つくば万博」は大成功裏に終了し、「つくば」という名は日本国内、全世界に広がっていく事になりました。

その後、つくばの街は、日本の科学技術の集積地として世界最先端の科学都市へと変貌し、世界に向けて科学・技術の発信基地として文化の高揚に寄与しています。平成17年8月、「つくばエクスプレス」(TX)の開通や東京からの高速バスの運行など、その重要性や利便性が一層高まっています。

「科学を体験する旅」をキーワードとして、年々つくばに訪れる人々は増加し、修学旅行の重要な学習拠点ともなっています。そのツアーを支えているのが、「つくばサイエンスツアーオフィス」です。広報活動はもとより、研究機関等の紹介やコース設定など、市内周辺47の研究機関・施設の協力を得て、活動が展開されています。

土曜・日曜・祝日、及び夏休み期間中には、TXのつくば駅から「つくばサイエンスツアーバス」が1日21便運行されています。一日乗り降り自由で、AXA 筑波宇宙センター(宇宙航空研究開発機構)、サイエンススクエアつくば・地質標本館(産業技術総合研究所)、国土地理院等9ヶ所の研究機関、施設、公園を効率良く巡ることが出来ます。ミュージアムグッズも人気の商品となっています。地質標本館の化石チョコレートも隠れた人気商品のようです。

また、児童・生徒のためのサイエンスツアーとして、次の7つの学習課題が設定されています。

宇宙と地球の歴史が知りたい。 暮らしをさえる技術を見たい。 食べ物の大切さを学びたい。

農業の楽しさを感じたい。 自然現象の不思議を体感したい。 学問のことを知りたい。

動植物の命に触れたい。

どれも魅力あるコースで、各施設が紹介されています。

つくばのもうひとつの魅力は、街全体が公園のようになっていることです。つくばの街を人に紹介する時、「つくばの街はガーデン・シティー」ですと必ず話すことにしています。つくばというと、研究機関、大学の街ですが、その研究機関や大学はどれも緑のカーテンに囲まれています。研究機関という機密性が強く、高い壁で覆われているというイメージがありますが、ここでは道路と研究機関を隔ているものは植栽です。松・杉・桜・樺・榎・銀杏等々色々な樹木がつくばの街を彩っています。その魅力は新緑、紅葉の季節だけではなくありません。真夏も「緑のカーテン」に覆われ、ちょっとした避暑気分も味わえます。

つくば市で発行している「つくば市の公園」というパンフレットによりますと、市内には児童公園・緑地を含めて141箇所もの公園が紹介されています。スポーツ・レクリエーション施設のある公園も41箇所にのびります。

科学万博の跡地に作られた科学万博記念公園、世界最大級のソーラーシステムを有する温水プールやナイター設備のあるテニスコートを持つ洞峰(どうほう)公園、世界最大級のプラネタリウムなど科学に触れる施設のエキスポセンターがある中央公園、1000本ものアカマツ林を生かした松代(まつし

る)公園など、まさに“ガーデン・シティ”の名にふさわしい場所でもあります。なんと、公園と並行して整備されたつくばを巡る歩行者専用道路は延べ48キロにも及びます。

今、学校の社会科見学、遠足でお弁当をひろげている姿や、写生・スケッチに来られている人の姿もよく見掛けます。そこではゆっくりと時間が流れています。都心から僅か60キロのところに最先端の研究開発と自然が調和したオアシスがあるのです。

都心から、つくばエクスプレスで45分、高速バスで60分、タイムスリップの旅に出掛けてみませんか。

[詳細・お問い合わせ：029-863-6868]
(つくばサイエンスツアーオフィス 薄井 聡)